

なぜ、タイムラインが必要なのか

どうすれば家族や地域の人たちが災害から助かるのか、事前に地域で話し合うことが大切です。

大規模な災害が「いつ」発生するかは誰にもわかりません。その「いつ」が我が身にふりかかったときに、何よりも大切な「命」を守らなくてはなりません。そのためには・・・

「地域の課題は地域で解決する」という意識・姿勢が最も重要になります。

特に地域の力が試されるのが災害時です。まず地域に水害・土砂災害など、どのようなリスクがあるのか、地域の中で共有し、家族や地域の人たちの命や財産をどのように守るのか、地域の中でしっかり考え、対応策を作っておくことが大切です。何より、地域の中で議論することが、いざという時に地域の中で助け合う第一歩になるのです。また、そのときに自治体や地域の企業・団体、有識者と一緒に考えることも大切です。

こうした地域での解決策を考えるひとつの方法が、

「コミュニティ（地域の）タイムライン」をつくることです。

タイムラインづくりを通じて、地域の中で顔の見える関係を築き、地域が災害に備えることで、いざというときに地域の防災力を最大限に発揮できます。

コミュニティ（地域の）タイムラインってどんなもの？

台風の影響による大雨によって引き起こされる「洪水」や「土砂災害」の場合、気象情報からあらかじめ台風最接近（雨が強く降るとき）の時間を予測することができます。

一番危険な時間帯を予測できれば、災害が発生する前に事前に備えをして避難することにより身の安全を確保することが可能です。しかし、いざというときに、いつ、誰が、何をするのかを分かっているなければ、全く意味がありません。

そこで、災害発生に備えて、「個人」と「コミュニティ（自治会など）」が事前にとるべき防災行動について、「いつ」「誰が」「何をするか」を時系列に整理したものが「コミュニティ（地域の）タイムライン」です。

どの道順で避難するのが正解？



事前に何をしておけば？



近所の要支援者に声をかけるのはいつごろ？



どんな情報が大事なの？



いつ、誰が、何を、どれだけ、どのようにしなければならぬかみんなで話し合い



自治体と地域住民と一緒に避難路や近所の危険箇所を確認



コダイくん



ロマンちゃん



コダイくん

ステップ1

まずは何を決めておかなければいけないかを話し合います。

ステップ2

次はみんなで近くの川や山などの危険な場所や避難場所を確認したりします。

ステップ3

最後に、みんなで話し合って決めた行動項目を表にまとめます。これで終わり。

◆コミュニティ（地域の）タイムラインのイメージ

いつ	時期	情報	防災行動		誰が
			何をきかけに	何を	
			個人	地域（自治会）	
	台風最接近の2～3日前	気象情報	事前にハザードマップを確認 非常持出袋の確認	地域連絡網の準備 安否確認方法の確認	
	台風最接近の1日前	気象情報	鉄道、バスなどの運行情報確認 非常持出袋を玄関に準備	要配慮者へ声掛け	
	台風最接近の数時間前	避難指示	指定緊急避難場所へ避難開始	指定緊急避難場所へ避難開始 要配慮者の見回り・支援の開始	
	台風最接近		避難が完了	地域全員の無事を確認	

お問い合わせ先

〒594-8501
和泉市府中町二丁目7番5号
和泉市危機管理部危機管理課
0725-41-1551（代表）
0725-99-8104（直通）
E-mail
kikikanri@city.osaka-izumi.lg.jp